

慶應義塾大学 日吉キャンパス

特色GP だより

no.5

>>> 慶應義塾大学日吉キャンパス 特色GP

日吉キャンパス特色GP第2回シンポジウム報告

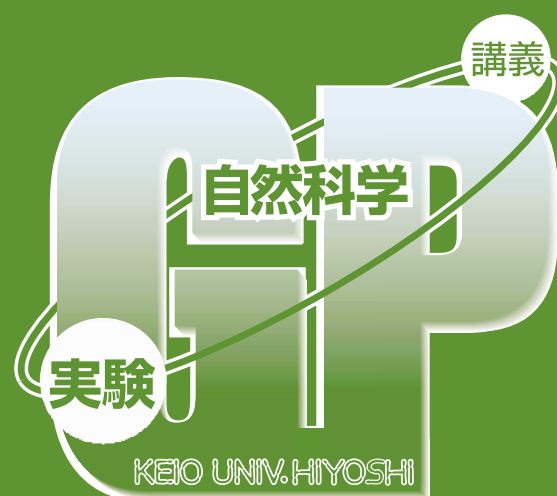
法学部 下村 裕

慶應義塾大学日吉キャンパス特色GP「文系学生への実験を重視した自然科学教育」第2回シンポジウムを、日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペースにて2006年11月22日(水)午後1時より開会し5時15分に閉会した。「様々なカリキュラムの可能性」と題されたシンポジウムの開催趣旨は、塾内外の大学で実施されているカリキュラムの形態と内容について理解を深め、関連する事項の質疑応答を通して副専攻制等も含めた新たなカリキュラムの可能性を模索することであった。シンポジウムは、下村裕法学部教授の司会によって、西村太良理事の挨拶で始まり、前半に京都大学・新潟大学・国際基督教大学の講演3件、後半に本塾の講演1件とパネルディスカッションがなされ、最後に安西祐一郎塾長の挨拶をもって閉会した。塾内外から63名(塾外18名・塾内教職員40名・塾生5名)の参加を得、興味深い講演と活発な議論によりシンポジウムの目的は十分達成された。また、その後開催された懇親会には31名(塾外12名・塾教職員19名)の参加があり、塾内外参加者間での情報交換と交流の機会となった。

本シンポジウムは、講師とパネリスト、事業1のワーキンググループ、その他多数の関係者、そしてシンポジウム参加者全員によって実現したものである。主催者の一人として各位に深く謝意を表する。



平成17年度特色ある教育支援プログラムで選定された「文系学生への実験を重視した自然科学教育」は、慶應義塾大学日吉キャンパスに在籍する文系4学部(文・経済・法・商)の学生を対象とする実験重視の自然科学教育を実践する取組です。この便りでは、取組の活動状況をお知らせします。



シンポジウムの詳細は報告書として後日刊行される予定であるが、講演タイトルと講演者、およびパネリストを次ページに付記する。

日時 : 2006年11月22日(水) 13:00~17:15
 場所 : 日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース
 講演題目 : 「様々なカリキュラムの可能性」

講演タイトルと講演者一 (敬称略)

- ・「京都大学総合人間学部『副専攻』制度の変遷」
西井正弘(京都大学大学院人間・環境学研究科教授 総合人間学部教務委員長)
- ・「新潟大学の新学士課程教育システム 分野水準表示法と副専攻制度」
濱口 哲(新潟大学教授副学長(学務担当) 全学教育機構副機構長)
- ・「実験から得られる智慧」
北原和夫(国際基督教大学教養学部教授 理学科長)
- ・「文系専門課程学生に対する自然科学教育カリキュラムの可能性
慶應義塾大学学生へのアンケート結果報告」
表 貴(特色GP事業推進責任者 慶應義塾大学商学部教授)
- ・パネルディスカッション
西井正弘、河野正司(新潟大学教授・理事(教育担当)・全学教育機構長)
濱口哲、北原和夫、西村太良、朝吹亮二(日吉主任代表・慶應義塾大学法学部教授)
表 貴

東北大学シンポジウム講演報告

日時 : 2006年11月24日(金) 13:00~17:20
 場所 : 東北大学 川内北キャンパス
 講演題目 : 「慶應義塾大における自然科学教育の試み; 過去、現在、そして未来へ」

文学部 金子 洋之

「文系学生向けへの理科実験の試み」のテーマのもと、東北大学シンポジウムに参加した。慶應義塾大学以外に、八戸工業大、大阪市大、北大、玉川学園大、横浜国大が招待されていた。各講演の中から、いくつかの重要な情報を列記したい。(1) 横浜国大では、新たな実験テーマの開発(物理学)が意欲的になされており、大人数クラスで模範実験を行っている(視察対象)(2) いくつかの大学の物理学実験では、実験器具を学生に自作させる、(3) 文理混合型の実験を行っている大阪市大では、文系1年生と

理系2年生がグループを作り実験を行うが、理系学生が文系学生を自らリードしていく利点あり、(4) 首都圏西部大学間では、単位交換制度が設けられている(約10名程度の学生が受講している)。なお、議論の中から浮かび上がってきた問題点として、オムニバス形式の実験授業では、テーマ毎の関連性が持たせ得ないことや、新たな教育のチャレンジに人員削減が大きな障害となることが発言された。また、文系学生への実験レポートの具体的な評価基準に関する質問があった。

大学教育学会課題研究集会シンポジウム講演報告

日時 : 2006年11月26日(日)
 場所 : 金沢大学
 講演題目 : 「文系学生への実験を重視した自然科学教育」

文学部 金子 洋之

「学士課程における理系基礎教育 - 教養教育からキャリア教育まで」のテーマで、慶應大、広島大、新潟大が講演を行った。慶應大学の取り組みにおいては、講義と実験をリンクさせ得る方法に関して質問され、慶應独自の組織性、教室利用法、各クラスの規模やオムニバス制を取らないことの意義などを答えた。広島大からは、工学系基礎学力の評価と保証を目指し、数学の統一試験の作製と実施を行っていることが報告された。具体的には、トイフルなどのように客観的かつ汎用的な成果基準を数学でも設けることにより、企業が良い学生を選択できる環境を作り、WEB上で判

定結果を知り得る仕組みやマークシートを使える問題作製を模索しているとのことであった(<http://www.aemat.jp/exam/>)。新潟大は、「企業連携に基づく実践的工学キャリア教育」というテーマのもと、工学力をつけることを目的に、積雪地帯である新潟の特徴である雁木作製を、学生自身が作製材料の手配から職人や発注者との話し合い迄を含めた総合的な現場での建築を行っている報告を行った。なお、議論の中から時代と伴に変化していく学生のモチベーションに合わせたプログラムを組むことの重要性が指摘された。

日時 : 2006年12月23日(土) 13:30~18:00

場所 : 東京大学駒場キャンパス

シンポジウム名 : [公開シンポジウム] 1・2年次における自然科学実験の特色ある取り組み

東京大学教養学部附属教養教育開発機構主催シンポジウム

講演題目 : 「実験を重視した文系学生への自然科学教育 - 生物編 - 」

法学部 秋山 豊子

本シンポジウムは、第1部として、東大での教育改革の経緯と報告、大阪大学(物理学; デジタル映像教材作成とその使用例)、北海道大学(物理・化学・生物・地学など自然科学を網羅的に含む『自然科学実験』の開講)と慶應大学(生物学)から、1・2年次における自然科学実験科目における取り組みが紹介された。第2部は東大で開発された実験科目のDVDの紹介、第3部はパネルディスカッションがなされた。

報告者は、慶應大学における自然科学教育の歴史的背景、自然科学のカリキュラムと実験科目の開講実体(必要単位、コマ数、授業時間、実験と講義の隔週実施、履修者の割合など)、特色GPの取り組み、既修者の割合とアンケート結果、生物学実習の全テーマ、報告者の実習実体と問題点について講演した。長年にわたる実験を含む自然科学教育の重視、実験と講義の隔週実施のシステム、卒業後の学生へ

のアンケート、個人的には実習レポートを採点し返却時に概評をしている点、時事的なテーマなどが評価された。

全体的な問題としては、実験担当の人材の確保や教育関連の経済的なサポートが望まれるということで会場が一致した。この記録は冊子体として刊行される予定である。



東大シンポジウム

全国大学アンケート調査報告

「文系学生を対象とする自然科学教育」に関する全国大学の状況調査報告書完成

日吉キャンパス特色GP事務局

2006年3月20日から5月26日にかけて実施した全国大学に対する「文系学生を対象とする自然科学教育」の現状に関するアンケート調査の報告書が完成した。調査対象は全国の全ての国・公・私立4年制大学であり、理工系や医学系等の学部のみからなる大学においても一部文系学生を含む学科が設置されている場合もあることから、判断は各大学の裁量に委ねることにして全ての大学にアンケート用紙を発送した。

複数の文系学部を持つ大学のうち6大学からは学部ごとの回答を頂いたことを含めて、312学部(301大学)からこのアンケートに関する回答を頂いた。この回答数は、文系学生が在籍する大学(調査対象となる大学)数の6割に相当すること

になり、アンケート集計結果の調査内容に関する資料としての意義を高めることになった。なお、文系学生を含まないと判断された大学(調査対象外となる大学)のうち、21大学からアンケートに関する回答を頂き、また72大学からは上記理由によりこのアンケートに対して回答することを取り止める旨の電話およびメールを頂いた。

本報告書は、全国の全ての国・公・私立4年制大学の学長宛と関係機関に送付すると同時に、日吉キャンパス特色GPのホームページにも掲載する予定である。これが一つのデータとして今後の大学教育のあり方に関する議論に寄与することを願うものである。

日吉キャンパス特色GP会議記録

2006年11月から2007年1月に行われた特色GP会議の報告事項および協議事項は下記の通りです。

11月17日(金)

- ・ 事業1『文系学生への実験を重視した自然科学教育』第2回シンポジウム～様々なカリキュラムの可能性～について進行状況
- ・ 矢上特色GPとの合同シンポジウムについて
- ・ 平成18年度予算執行状況について
- ・ 平成19年度調書作成について

- ・ 平成19年度調書作成について
- ・ 三田新校舎建設に伴う自然科学からの要望書について
- ・ 平成18年度予算執行状況について

12月14日(木)

- ・ 事業1 第2回シンポジウム報告
- ・ 他大学シンポジウム報告(東北大学・大学教育学会課題研究会/金沢大学)

1月11日(木)

- ・ 今年度海外視察について
- ・ 平成19年度調書予算案について
- ・ 平成18年度予算執行状況について
- ・ 他大学シンポジウム報告(東京大学)

矢上・日吉特色GP合同シンポジウムのためのワーキンググループ

2006年11月から2007年1月に行われた矢上・日吉特色GP合同シンポジウムのためのワーキンググループ会合の報告事項および協議事項は下記の通りです。

第1回会合：11月2日(木)

- ・ 合同WGメンバー紹介
- ・ 日吉特色GP事業の概略説明
- ・ 矢上特色GP事業の概略説明
- ・ 合同シンポジウムについて

第2回会合：12月18日(月)

- ・ 合同シンポジウムについて下記項目について議論した。
 - 内容、形式、招待講演者、観客層、日程、会場、広告、懇親会
 予算、事務局設置

第3回会合：2月26日(月)

- ・ 合同シンポジウムの構成案・招待講演者について議論した。

事業1ワーキンググループ 会議記録

2006年10月から2007年2月にわたり事業1のワーキングメンバーによる会議が行われました。報告事項および協議事項は下記の通りです。

10月25日(水)

- ・ 第1回シンポジウム報告書1,000部発行済
- ・ アンケート調査報告書の最終修正について
- ・ 第2回シンポジウムのパネルディスカッション
 テーマ検討

- ・ アンケート調査報告書1,000部発行済
 第2回シンポジウム後に配布予定
- ・ 第2回シンポジウムの最終打合わせ

11月7日(火)

- ・ 第1回シンポジウム報告書の配布先について
 三田と矢上にも配布する
- ・ アンケート調査報告書1,000部発行予定
- ・ 第2回シンポジウム準備のための人員配置

12月12日(火)

- ・ 第2回シンポジウム総括
- ・ 2007年度GP事業1の活動内容と経費の明細案
- ・ 三田新校舎建設に伴う自然科学からの要望書について

11月21日(火)

- ・ 第1回シンポジウム報告書650部を配布済

2月6日(火)

- ・ GP事業1の新メンバー紹介
- ・ 2007年度GP事業1の活動内容と経費が調書に盛り込まれる
- ・ 海外大学調査
- ・ 文系専門課程学生のための自然科学教育プログラムについて

今後の予定・お知らせ

日吉キャンパス特色GPからのお知らせ

2007年3月11日～3月18日 アメリカの大学視察(プリンストン大学、カリフォルニア州立大学バークレー校)

なお、2月7日～24日にはヨーロッパの大学視察(パリ大学、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学)を行った。
 その報告書は次号掲載予定。

特色GPウェブページでは以下のコンテンツを掲載しております。

- ・ 活動予定、記録
- ・ 文系学生の実験について
- ・ 他大学調査、報告書、全国大学アンケート調査
- ・ 関連プロジェクト

慶應義塾大学日吉キャンパス特色GP事務局

Tel: 045-566-1316 (内線: 33533)

E-mail: gp-sci@phys-h.keio.ac.jp

http://www.sci.keio.ac.jp/gp/



生物実験風景